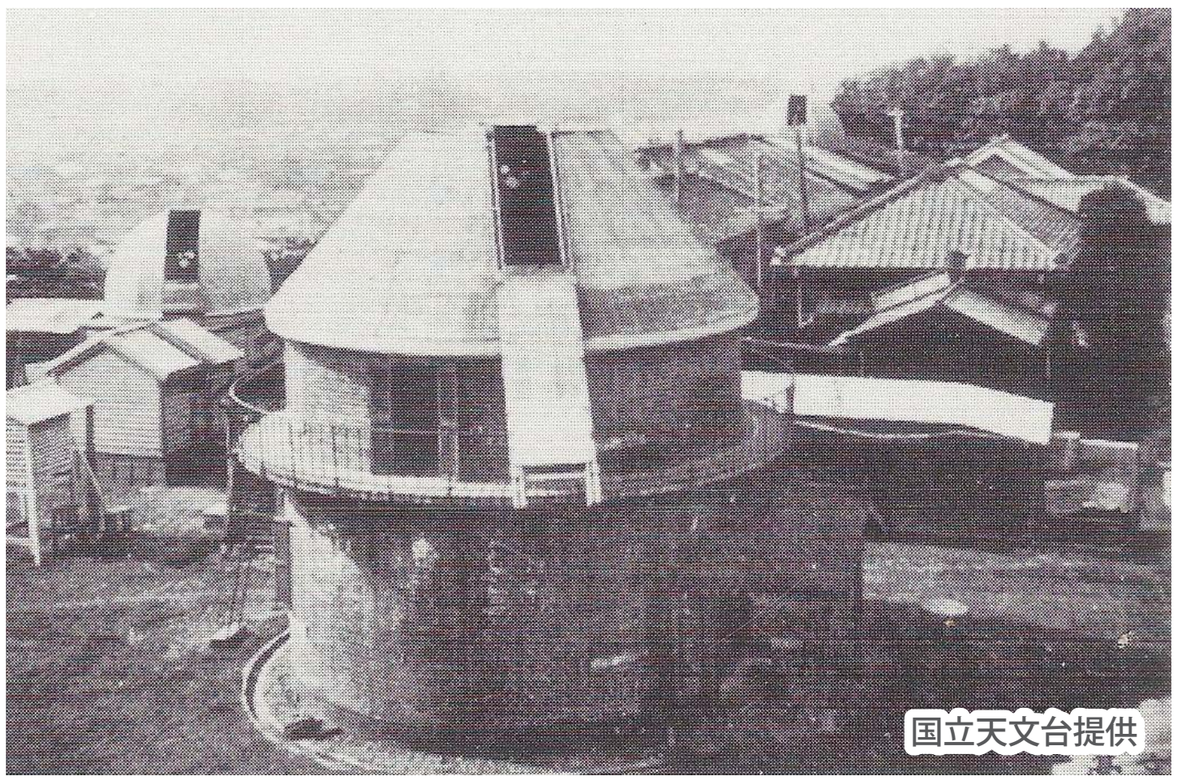
はじまりは麻布から（海軍観象台）

明治16年頃（1883年頃）：海軍観象台

海軍観象台は、今の麻布台2丁目にある日本経緯度原点（国土地理院）の地にあった。
明治5年(1872年)11月に麻布飯倉の戸沢邸と石井邸の一部を買い入れ、小規模ながら施設を設立。これが海軍観象台の発端となった。その後、アメリカ、フランス、メキシコの観測の申し入れを受け、明治7年(1874年)の金星の太陽面通過の観測を共同で行った。この観測は日本の東京、横浜、神戸、長崎で同時に行うことにより、今まで正確にわかっていなかった、太陽と地球との距離を正確に割り出すことができた(１天文単位)。
また、観象台の経緯度を正確に測量し日本経緯度原点とした。

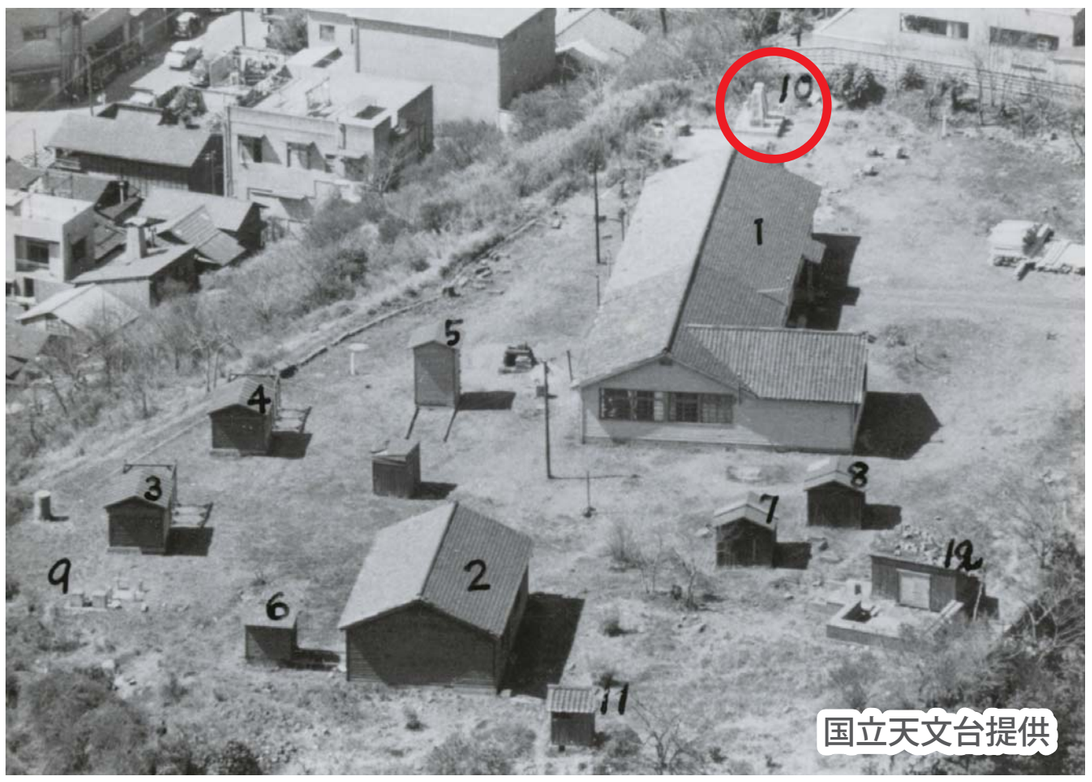
水路寮「金星試験顛末」 海洋情報資料館蔵

明治7年（1874年）：金星日面通過観測



明治25年頃（1892年頃）：東京大学東京天文台

明治21年（1888年）6月、この観象台の地、麻布に東京天文台を設立。海軍省水路部の天象観測および内務省地理局業務の天象観測、遍歴事業ともに東京天文台に移管。
大正12年（1923年）9月 関東大震災が発生。火災はまぬがれたものの、施設および観測機器に大損傷を受け、これを契機に三鷹への移転が急速に進んだ。



昭和34年頃（1959年頃）：
東京大学理学部天文学教室と日本経緯度原点

麻布の天文台用地に残された建物・観測器械は東京大学理学部天文学教室の所属となり学生の講義・実習にあてられた。
昭和20年(1945年)5月戦災で焼失。その跡にはバラックが建てられ、昭和35年(1960年)4月の本郷移転まで、天文学教室はこの地に存続した。
上の写真の中10に日本経緯度原点が見られる。

日本経緯度原点の原点数値は、明治25年(1892年)に東京天文台の経緯度観測の観測台である子午環の中心に定められた。その後、大正12年(1923年)の関東大震災により子午環が崩壊したため、昭和36年(1961年)にその位置に金属標を設置し、日本経緯度原点を再現した。

平成27年（2015年）：日本経緯度原点

このパネルの古い写真について／写真提供：海上保安庁海洋情報部、国立天文台

【麻布未来写真館】

はじまりは麻布から（マイクロウェーブ幹線創始之地）

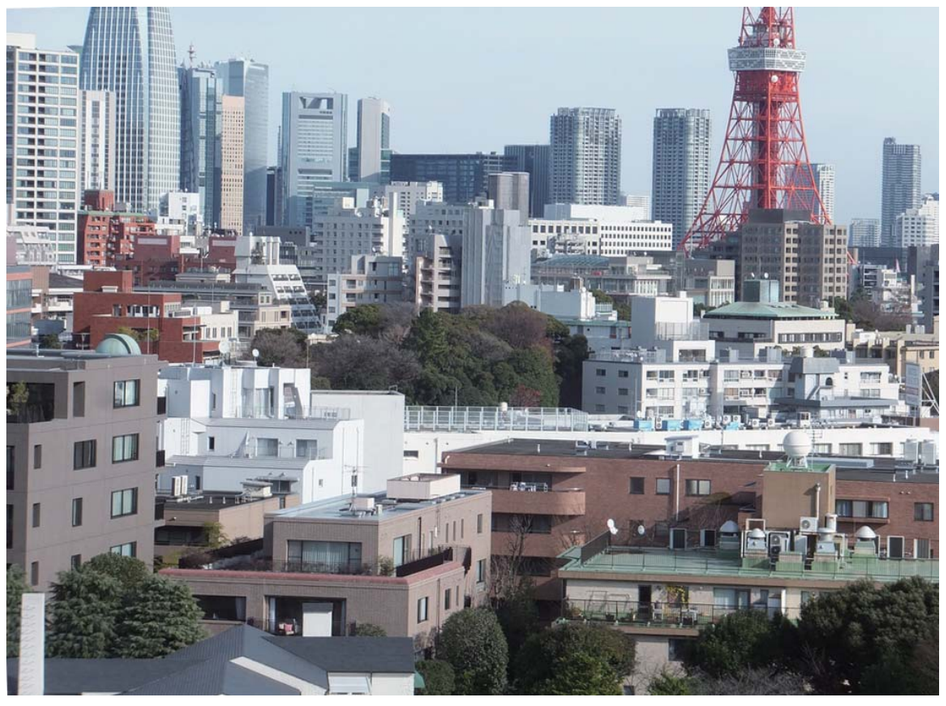
昭和30～40年代頃：東京統制無線中継所

昭和30～40年代頃：東京統制無線中継所

平成27年（2015年）：マイクロウェーブ幹線創始之地

平成27年（2015年）：元麻布三丁目付近

東京統制無線中継所は通称「ＴＲＣ」(Television Relay Center)といわれているが、これは現在の港区青山に局舎ができてからで、以前は「東端」と呼ばれていた。
昭和29年４月：我が国最初の東京―大阪間長距離マイクロ回線の東京側端局として港区麻布宮村町（現在の元麻布三丁目付近）に開設。
東端から出るマイクロ回線は東名阪のほか、仙台、札幌方向や、金沢、新潟方面と拡大され、電話、テレビの回線数もそれに応じて増大したため局舎が狭くなった。
昭和38年11月22日：ケネディ暗殺速報の宇宙中継電波を放送する。
昭和39年：東京オリンピックを契機に、テレビ部門は宮村町から現在の青山に移転。マイクロ端局部門とテレビ部門の２頭立てで運営。渋谷、蔵前、唐ヶ崎、十条に統制無線中継所が設立。
昭和48年：宮村のマイクロ端局は幕を閉じた。

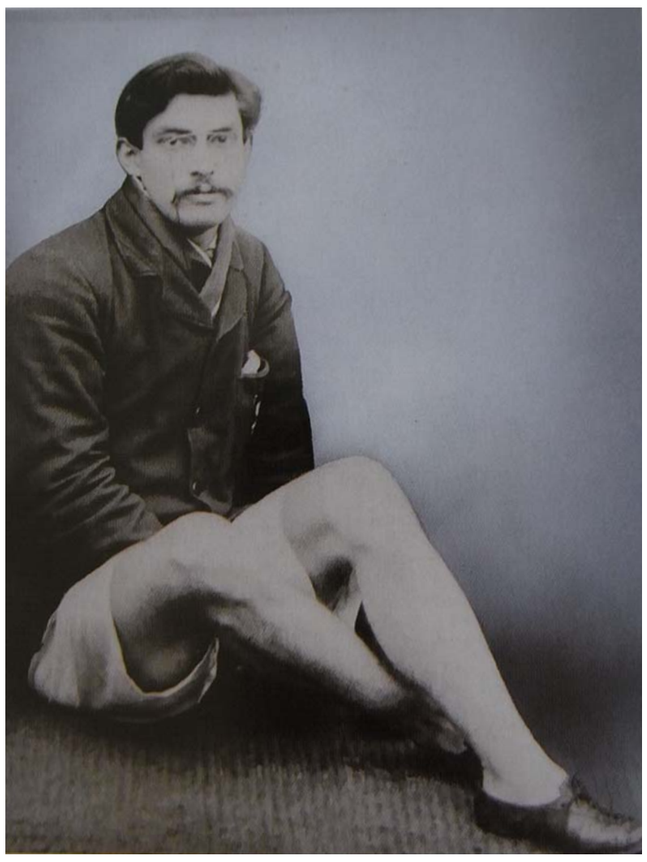


平成27年（2015年）：元麻布三丁目付近

参考文献：「東京統制無線中継所」(岡田秀夫執筆。『テレビジョン』第31巻第３号。1977年３月)
このパネルの古い写真について／写真提供：東日本電信電話株式会社

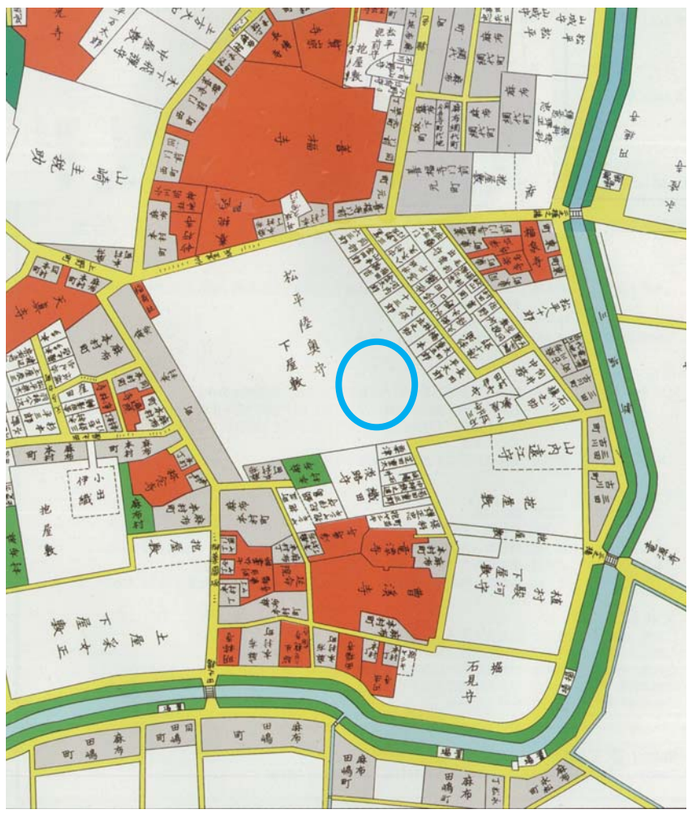
はじまりは麻布から（日本ラグビー創始の地）

2015年ラグビーワールドカップで日本は３勝という快挙を成し遂げた。
日本ラグビーは1899(明治32)年秋、麻布仙台ケ原で慶應義塾の塾生による練習で誕生した。伝授したのはこの年の1月に慶應義塾の英語講師として来日していたE・B・クラークと田中銀之助である。二人とも英国の名門ケンブリッジ大学の出身。　田中銀之助は麻布市兵衛町の屋敷に住んでいた。



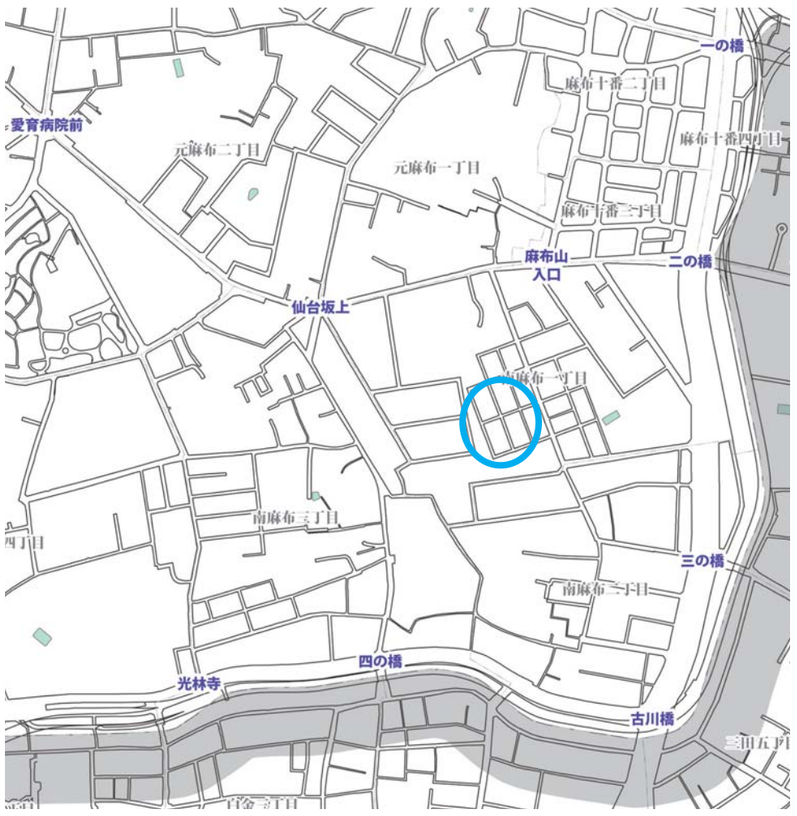
クラーク氏

中央白服左がクラーク氏、右が田中氏



江戸時代

明治42年頃（1909年頃）



現在の南麻布一丁目

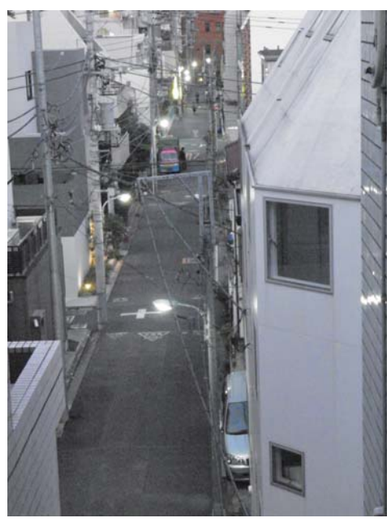
練習場の場所は、現在の南麻布一丁目付近。旧町名では竹谷町である。
慶應ラグビー百年史に地図があるが、これによると、現在の韓国大使館（当時は松方邸）の南側である。つまり仙台坂下付近であるが、この辺りにラグビーができる平地があるのかを歩いて調べてみた。

江戸時代の古地図では青い○付近になる。元々仙台藩の下屋敷であり、明治頃も原っぱだったのかもしれない。その後は民家や小さい工場が立つようになった。（その頃の風景は高見順の小説『わが胸の底のここには』に詳しい）。

右の写真①は仙台坂下方面を写している。平地ではあるが、写真左手には崖があり、それ程広くは無い。ラグビー場程の広さは無いが練習場があったのかもしれない。

右の写真②は崖上（西側）から仙台ケ原と思われる場所を写した風景である。

①南麻布一丁目 仙台坂下方面



②崖上から

参考文献：『慶應義塾体育会蹴球部百年史』　このパネルの古い写真について／写真提供：慶應義塾体育会蹴球部黒黄会

【麻布未来写真館】